

=市全体、各学校、子どもたち、関係者の様子をお届け=

CS通信②号

一名護市教育委員会 令和5年6月14日発行



CS推進スローガン（導入期）

学校・家庭・地域みんなが子どもたちの「せんせい」です

第2号テーマ



地域の強みを活かした

総合的な学習



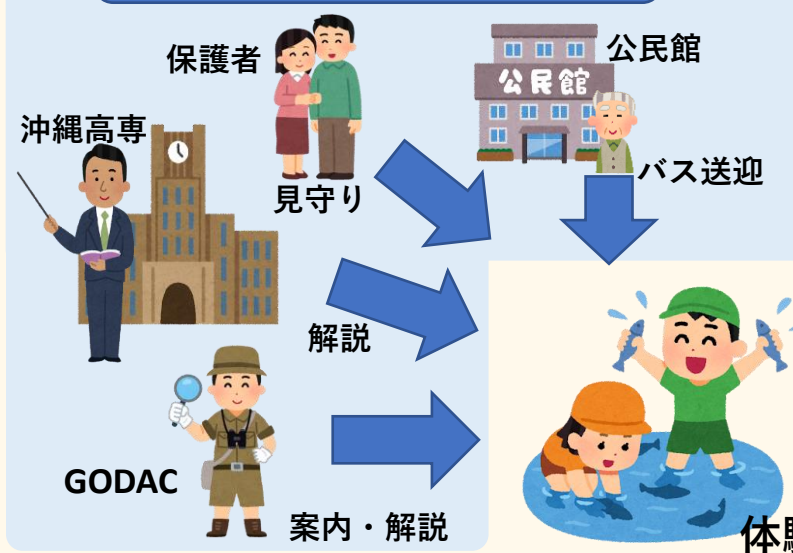
地域の生き物を調べよう

～地域の海・豊原海岸に住む海の生き物を見つけに行こう～



令和5年6月6日、地域の教育機関、企業、保護者、公民館が協力して実現した取り組みが久辺小学校にて実施されました。その取り組みをご紹介します。

学びを支える 地域学校協働活動ネットワーク



先生がやってみたい 授業の実現へ

- ◎授業全体の進行（ねらい・めあての確認）
- ◎子どもの変化をみる
- ◎学び、気づきへの声掛け「なんでだろうね？」
「どうしてだと思おう？」



それぞれの強み・役割を見いだすゆるやかな関係性



多くの大人に見守られながら自然に触れ、地域を知る。



年度初めに関係者と地域学校協働活動についての話し合いの中で地域学校協働活動の年間予定を共有。そこで多くの人に関わってもらう視点からGODACと沖縄高専の協力による地域学校協働活動が実現した。事前の公文により保護者が見守りに参加。多くの大人が見守る中、久辺小学校3年生24人が地域の海である豊原海岸に出かけ、課外授業を行った。

協働活動 ネットワーク

- 【団体】 国際海洋環境情報センター（GODAC）職員2名
- 【教育機関】 沖縄工業高等専門学校生物資源工学より職員4名
- 【家庭・地域】 久辺小学校の保護者6名、久志公民館よりバスと運転手の提供

海のいきもの探し

スタート



① 久志公民館の協力でバスと運転手を手配。久辺小学校から豊原海岸までバスで送迎をして頂いた。



③ 子どもたちの興味がある場所で生き物探し。生き物を見つけるたびにGODACや沖縄高専の方が解説。「これなに〜?」「触ったらぶにぷにする〜!」など子どもたちは教室では見られないキラキラした表情を見せていた。見守りの大人も子どもたちも入り混じり、会話を楽しみながら終始笑顔の体験となった。



② 現地（豊原海岸）で保護者・GODAC、沖縄高専の方々と合流。挨拶と危険生物、観察のルールを確認した後、みんなで生き物探しに出発。



ポイント 「互恵的な関係」



学校にとって

専門的な知識と安全面の確保を多くの大人たちの協働により実現。児童の変化にも気づく機会になっている。

保護者にとって

学校からの公文による依頼に応じて参加。家では見られない子どもたちの様子を見たり、地域、学校を知る・つながる機会になっている。

地域にとって

体験を通して地域を知ることが様々な興味関心につながり、子どもたちの進路の選択肢として地元の企業や教育機関が繋がっている。体験を通して地域を好きになる子が増える。

こども達と笑顔で話せることがうれしい。こんなに楽しいならもっと多くの人と一緒にやりたいね〜



地域・企業

学校

多くの人が関わってくれて、安全面でも専門知識でも本当に助かります。教室とは違う子どもたちの笑顔がとても印象的。



CS通信ってなに？

1. 名護市全体でのCS推進の取組み発信
2. 各学校でのCSの取組み発信
3. 先生の地域と連携した授業づくりを共有
4. 子どもたちの地域に根差した活動を発信

